

美郷・六郷高2年生
将来の働き方考える
地元の若手社員と交流



地元企業の若手社員(手前)に質問し交流する六郷高生

働くことについて考える「MISATOでWORKING住まいる事業」が、美郷町の六郷高校で行われた。2年生約60人が地元企業の若手社員とのパネルディスカッションや座談会を通じ、将来の仕事について考えた。地元就職を促し、定住に努めようと町商工会が毎年開

く、美郷町と天仙市の建設業者、介護事業者、解体業者、運送業者の若手社員4人がパネリストとして出席。斉藤光孝製作所の齊藤大樹社長、アピオの内田清文社長がコーディネーターを務めた。パネルディスカッションでは、4人が働いて良かったことや大変だったことを紹介。同校卒業生で、JA秋田おほこシヨートステイやすらぎに勤める伊藤美羽さん(20)は「社会に出ていろいろな年代の人と関わり、視野が広がった」と話した。解体業モリモトの森元洋平さん(29)は学生と社会人の違いについて「(社会人は)自分で仕事を組み立てていくので結果に責任が伴う」と語った。後半の座談会では、生徒から「一日のスケジュールは」「仕事で緊張しない方法は」といった質問が出た。パネリストらは「最初はできなくて当然なので失敗を恐れないで」などと助言していた。六郷高の熊谷大葵さん(20)は「社会人にも心配事はあるんだな」と思った。何事にも挑戦して、将来の夢につなげたい」と話した。

(佐藤将弥)